
深海魚の恋

師祇

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

深海魚の恋

【Nコード】

N7536X

【作者名】

師祇

【あらすじ】

恋する乙女は深海魚にだってなると思います・・・勝手な思いこみですが。

- - - - 私が好きなのは、いつも水を見つめている・・・。

「・・・今日はお魚さんがあがってこないねえ」

薄汚れた池を覗き見て、ボサボサに伸ばし放題の髪を掻きながらそんなことを言う。

「釣りはボクは好きじゃないんだ。お魚さんが可哀想だからね」

白衣のポケットにいつも入っているエサをまきながら苦笑いする。

「魚の中でも、深海魚がとくにいい。あの謎に満ちた不思議な生態と形状。好奇心がそそられる」

先生はちよつと変わっている。そう言つて煙草を点けるジッポの柄もチヨウチンアンコウだ。

- - - - 先生は私を見てくれない。私が地上にいるから？

私は池に飛び込んだ。先生は目を丸くした。はじめて私の顔を見てくれた。

「・・・私が深海まで潜れば、先生は私をみてくれますか？」

「深海つてのは・・・一般的に言えば200m以上も下だよ」

「先生が見てくれるなら、潜れると思います」

先生は水に濡れた私をジッと見た。私は小さくクシャミをした。

「君は・・・。うん。確かに深海魚がいるくらい深そうだ」

「ええ。マリアナ海溝よりも深いかも知れません・・・」

そう言う私に、先生は笑って手をさしのべてくれた・・・・・・・・。

人魚姫が人間になりたかったように、深海魚になりたい人間がいても・・・おかしくないと私は思うのだ。

（後書き）

深海魚・・・好きなんですよね。

でも、女の子とのドライブで深海魚の話したら、次から音信不通になったんで。

『深海魚が好きな女の子いてもいいじゃない！』

そんな思いで書いてみましたが・・・うーん。こんな子いるわけないですね（汗）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7536x/>

深海魚の恋

2011年10月20日03時03分発行